



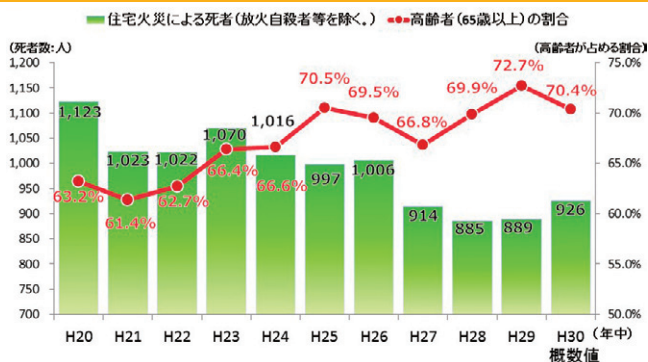
身近な  
防火・防災  
プロジェクト

## 敬老の日に「火の用心」の贈り物 「住宅防火・防災キャンペーン」 (9月1日～9月21日)

### 予防課

近年、住宅火災による死者数は、1,000人前後の高い水準で推移しており、このうち65歳以上の高齢者が約7割を占めています。(下図参照)

#### 住宅火災による死者数と高齢者の割合



高齢化の進展とともに、住宅火災による死者の内高齢者の占める割合が増加していることから、消防庁では、「敬老の日に『火の用心』の贈り物」をキャッチフレーズに、改めて高齢者とそのご家族の方々に、火災予防の取組を行うよう注意喚起するとともに、高齢者に住宅用火災警報器等をプレゼントすることなどを呼び掛ける「住宅防火・防災キャンペーン」(キャンペーン期間：9月1日～21日)を実施します。

このキャンペーンは、火災の犠牲者の中でも、特に高齢者の方々の被害を減らすことを目的に、9月の「敬老の日」に、高齢者のお宅に設置してある住宅用火災警報器の作動確認、寝たばこの防止やストーブ・ガスこんろの適切な使用などを呼び掛けたり、お子さんやお孫さんから高齢者に「住宅用火災警報器」、「住宅用消火器」、「エアゾール式簡易消火具」または「防災品」などをプレゼントしたりすることを推進するものです。

#### ○ 高齢者を住宅火災から守るために

##### (1) 早く知る！

住宅火災で死者が発生する要因として、火災の発見が遅れ気付いた時には火煙が回り、既に逃げ道がなかったと思われる事例が多く報告されています。

火災の発生を早く知って速やかに避難できるように、現在、各自治体の火災予防条例で寝室や階段などに「住宅用火災警報器」を設置することが義務付けられています。

この「住宅用火災警報器」は、電池の寿命が約10年とされており、また、経年劣化により故障する可能性も考えられることから、年2回ほどの定期的な点検が必要となります。

是非この機会に高齢者のお宅に設置されている「住宅用火災警報器」の点検を行い、異常がある場合は交換してあげましょう。

##### (2) 早く消す！

火災が発生したときに消火器で初期消火を行うことは、被害を最小限に食い止めるためにも非常に重要です。ただ、「消火器」というと、「大きいから置く場所がない」とか、「重くて火事の時にうまく使えるか不安」と思われる方もいるのではないのでしょうか。

しかし、消火器のほかに小さくて軽い「住宅用消火器」や、スプレー式で高齢者でも扱いやすい「エアゾール式簡易消火具」といったものも販売されています。

特に消火器を使用することが難しい高齢世帯には、このような器具を備えておくことをお勧めします。

##### (3) 火を拡大させない！

死者が発生した住宅火災の中で出火原因として多いのは、たばこによるものです。なかでも寝たばこにより発生した火災で多くの死者が発生しています。また、調理中にこんろの火が衣服に燃え移ることにより亡くなる高齢者もおられます。このような火災による死者を減らすため、枕・布団などの寝具やパジャマ・エプロンといった衣類に燃えにくく作られた「防災品」を使用することをお勧めしています。

また、カーテンやじゅうたんなども「防災品」であれば、万が一火災が発生しても、急激に火災が拡大するのを防ぐことができます。車やバイクのボディカバーなども同様に「防災品」を使用することが、放火による火災の拡大防止に大変有効です。

大切な“おじいちゃん”や“おばあちゃん”が火災の被害に遭わないように、今年は、身近な防火対策を考える「敬老の日」にしてみませんか？



#### 問い合わせ先

消防庁予防課予防係 吉田、中野  
TEL: 03-5253-7523